

都市建設部

令和6年度 重点目標





- 1 賑わいと交流のまちづくりに向けた道路網の整備・促進
- 2 インフラ施設の長寿命化と防災・減災の推進
- 3 安全で快適な都市環境の整備
- 4 交通まちづくりの推進と公共交通の維持確保
- 5 緑豊かな健幸都市空間の創出

重点目標	賑わいと交流のまちづくりに向けた道路網の整備・促進		部局名	都市建設部	優先順位	1位	
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 安心・安全な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第1節 賑わいと交流のまちづくりに向けた道路網の整備・促進		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる			
第四次上田市行政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 ウ 市民への説明責任を果たす的確かつ積極的な情報発信 エ 広域連携の推進						
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市内外の交流を円滑に進めるための道路網は、住民生活や経済社会活動を支える最も基本的な社会資本です。 ・ 幹線道路網の交通混雑の緩和を図り、救急・防災機能を高めるため、また、観光を含めた産業振興やまちづくりの面からも、強固な交通体系の整備が急務となっています。 ・ このため、国道18号上田バイパス第二期工区を含めた都市環状道路とそれを補完する市道及び上田駅へのアクセス道路等の整備を促進する必要があります。 						
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 上田地域定住自立圏構想及び上田地域30分（サンマル）交通圏確立のための道路整備路線を柱に、幹線道路網の整備を促進することにより、渋滞緩和や安全確保が図れます。また、災害時の緊急輸送道路や生活道路としての活用が図れます。 ・ 主要地方道長野上田線及び主要地方道上田丸子線を通じた千曲川左岸地域からの中心市街地へのアクセスの向上と、沿線の歩行者等の安全の確保と交通渋滞の緩和を図ります。 ・ 幅員1.8m以上4m未満の狭あい道路について中心標を設置することで道路後退線が明確になり、建築物の建替えに合わせて狭あい道路解消が図られます。 		該当するSDGsの目標				
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 上田定住自立圏構想等に位置付けられた広域幹線道路（長野県実施事業）の整備促進 (1) 主要地方道長野上田線（北天神町古吉町線） 主要地方道上田丸子線（北天神町古吉町線） (2) 国道144号上野バイパス (3) 主要地方道小諸上田線（町吉田～中吉田） (4) 上信自動車道、上田諏訪・松本佐久連絡道路 (5) 国道143号青木峠バイパス（トンネル化） (6) 主要地方道別所丸子線鈴子バイパス (7) 上田丸子トンネル	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月 (5) 4月～3月 (6) 4月～3月 (7) 4月～3月	県と協力し事業の進捗を図る。 (1) 御所工区完成、赤坂交差点先線（川辺町工区）の用地測量実施 (2) II期工区の事業進捗 III期工区の詳細設計の実施 (3) 東御市境側（I期工区）の測量・設計 (4) [上信自動車道] 要望活動継続、事業化への取組促進 [上田諏訪・松本佐久連絡道路] 高規格道路指定の要望活動等の実施 (5) 用地買収・工事着手 現道の交通安全対策手法の検討 (6) 設計協議の進捗、用地調査の実施 (7) 事業化に向けた研究				
②	○ 上田地域30分（サンマル）交通圏構想実現に向けた幹線市道の整備推進 (1) 市道踏入大屋線 (2) 市道上田橋下堀線	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 工事L=100m (610/850m 進捗率 72%) 橋梁上部工(R4～R6) L=103.6m、W=12.8m (2) 道路の線形及び構造について関係機関と協議				
③	○ 上田バイパス第二期工区の整備促進 (1) 用地買収・工事（橋梁等）	(1) 4月～3月	(1) 国土交通省長野国道事務所での事業実施中であり、事業進捗への連携・協力				
④	○ 産業振興や住みやすい環境づくりに寄与する道路整備の推進 (1) 市道下吉田久保林線（国道18号上田BP関連） (2) 市道中野小泉線バイパス（小泉2号線） (3) 富士山運動公園線ほか (4) 狭あい道路の中心標設置 (5) 市道金井線	(1) 4月～3月 (2) 4月～6月 (3) 4月～12月 (4) 4月～3月 (5) 4月～3月	(1) 工事L=280m (400/450m 進捗率 89%) (2) 工事L=120m バイパス区間完了 (1,400/1,400m 進捗率 100%) (3) 舗装工事L=590m (2,050/2,500m 進捗率 82%) (4) 中心標60箇所（180標） (5) 用地補償 N=2件 (進捗率2/2 100%)				
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題			

重点目標	インフラ施設の長寿命化と防災・減災の推進		部局名	都市建設部	優先順位	2位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 安心・安全な快適環境のまちづくり 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全・安心に暮らせる環境の整備		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 ウ 市民への説明責任を果たす的確かつ積極的な情報発信 エ 広域連携の推進					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> 市道は、老朽化が進み、更新・修繕が必要とする橋梁および舗装が増加の一途を辿っており、この対策が急務です。 平成22年8月の矢出沢川流域の豪雨災害に対し、県が平成23年3月に策定した上小圏域河川整備計画(矢出沢川)を基本に河川改修工事を進めており、早期完成を図る必要があり、また、市街地中心部での豪雨災害が頻発しており、雨水流入の抑制を含めた総合的な治水対策に取り組む必要があります。 交通量の多い通学路の歩道整備や安全確保に向けた道路整備と合わせ国庫補助事業の制度に基づき、地域の貴重な観光資源である千曲川等の河川を活用した魅力創出のための河川空間の整備事業、治水対策を目的とした河川事業整備事業による安全・安心なまちづくりを推進する必要があります。 地震による建築物の倒壊の被害から、市民の生命、財産等を保護し、その生活環境の保全を図るため、既存建築物の耐震化を促進するとともに、狭あい道路の解消を促し、災害に強い安心して住めるまちづくりを進めていく必要があります。 交通量の多い通学路の歩道整備や安全確保に向けた道路整備と合わせ国庫補助事業の制度に基づき、地域の貴重な観光資源である千曲川等の河川を活用した魅力創出のための河川空間の整備事業、治水対策を目的とした河川事業整備事業による安全・安心なまちづくりを推進する必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> 橋梁の更新時期を出来るだけ平準化する方法として、計画的かつ適切な維持修繕により橋梁の長寿命化を図ると共に、老朽化した舗装・トンネルの修繕工事を行います。また、令和元年度から2巡目の橋梁の定期点検を行っています。 上田市街地の豪雨災害を抑制し、地域住民の安全・安心な暮らしを守ります。 道路や歩道、河川の整備により、歩行者の安全確保や内水対策と水辺環境整備の充実が図られます。 昭和56年5月31日以前の建築物で大地震により倒壊のおそれのある既存建築物の耐震化が図られます。 		該当するSDGsの目標			
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
①	○ 老朽化した道路構造物の長寿命化の推進 (1) 橋梁長寿命化の推進	(1) 4月～3月	(1) 【橋梁修繕・点検】 ・上田地域 工事 8箇所 委託 8箇所 橋梁点検 157橋 ・丸子地域 委託 4箇所 ・真田地域 委託 1箇所 ・武石地域 工事 1箇所 委託 1箇所			
②	○ 上田市街地ほかの防災・減災対策 (1) 城下地区排水対策事業 (2) [県]矢出沢川整備事業 (3) [国]千曲川国分地区築堤整備事業 (4) 民間建築物の耐震化	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月 (4) 4月～3月	(1) 御所沢調整池 用地取得 2件 工事実施 (R6～R7) (2) 常盤城工区の早期完成、上流部の治水計画検討 (3) 千曲川河川事務所と早期完成に向け連携・協力 (4) 耐震診断 木造住宅50戸 耐震補強工事等 15戸			

重点目標	安全で快適な都市環境の整備		部局名	都市建設部	優先順位	3位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 【安全・安心な快適環境のまちづくり】 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第3節 安全・安心に暮らせる環境の整備		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	4 日本を代表する循環型社会をつくる ●温室効果ガスの排出削減と再生可能エネルギー活用を一層推進し、施設周辺のモデルを起点にゼロカーボンシティ上田をめざす ●地域経済を循環させ、民間協働で中心市街地の活性化		
第四次上田市行政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け	(1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 ア ICTの活用による行政サービスの向上と業務の効率化 ウ 市民への説明責任を果たす的確かつ積極的な情報発信					
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 少子高齢化等の影響により、上田市内にも適正に管理されていない空家等が多数存在していることから、この対策や活用策等が求められる中、地域の活性化を目的とした移住定住施策も視野に「空き家バンク制度」及び「空き家セカンドユース事業」による空き家の有効活用の推進が必要です。また、老朽化が著しい市営住宅について「上田市市営住宅等長寿命化計画」に沿った整備の推進と、統合建替への検討が必要です。 ・ 3年間の社会実験を行ったシェアサイクル事業の実績・成果を踏まえ、単なる貸自転車事業ではなく、様々な地域課題に対応するツールとしての社会実装が求められています。 ・ 上田城跡周辺の景観形成・環境整備に合わせた、「ウォークアブルまちづくり」や「グリーンインフラ」の推進が必要です。 ・ 上田城大手門に通じる新参町線は、観光客のメインルートであるほか市役所前のシンボルロードであることから、城下町らしい風格あるまちなみを創出する必要があります。 ・ 上田市都市計画マスタープラン及び上田市立地適正化計画を令和5年度に改定したことから、計画に掲げる「ネットワーク+多極・拠点集約型都市」の実現に向けた具体的な施策、事業の推進が必要です。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・ 空き家の発生抑制、適正な管理の推進、利活用の促進、管理不全空家の解消（解体）等を行うことにより、周辺住民の安全安心な暮らしの確保と住環境の改善を図るとともに、「空き家バンク」等の有効活用により、地域コミュニティの向上など地域の活性化を図ります。 ・ また、市営住宅について長寿命化を目的とした整備や統合建替を実施することで、入居者等にとって良好な居住環境の確保を図ります。 ・ シェアサイクルを社会実装し、まちの賑わいや経済の活性化、公共交通の利用促進などに結びつけるツールとして活用していきます。 ・ 「上田城 城下町エリアビジョン」の策定、旧JA上田店敷地への緑地のある休憩・交流スペースの整備により、「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりの推進を図ります。 ・ 新参町線の無電柱化と歩道的美装化により、防災性・安全性・快適性及び城下町の景観形成の向上を図ります。 ・ まちなかの遊休地・空き家・空き店舗の有効活用を促進するとともに、郊外農地等への無秩序な開発を抑制していくための手法を検討し、拠点集約型の都市構造への誘導を図ります。 					
	該当するSDGsの目標 					
	取組項目及び方法・手段（何をどのように）	期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）	期末報告（目標に対する達成状況・達成度）	
①	○ 老朽危険空家等の解消及び空家利活用に向けた対策の推進 (1) 老朽危険空家の解体及び跡地の利活用の推進 (2) 空き家バンク制度の推進 (3) 空家実態調査の着手	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月 (3) 4月～3月	(1) ・老朽危険空家の解体補助 補助件数：18件 (2) ・物件登録：20件 ・利用希望者登録数：110件 ・成約件数：20件 (3) 空家実態調査の着手			
②	○ 市営住宅の適正管理及び統合建替への推進 (1) 上田市債権管理条例に基づく住宅使用料及び駐車場使用料の適切な債権管理の実施 (2) 市営住宅等長寿命化計画に沿った住環境の整備及び統合建替への推進	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) ・滞納繰越額の削減 目標とする滞納繰越額：R4決算額 住宅使用料：26,936千円 駐車場使用料：474千円 (2) ・屋根及び外壁改修 千曲町団地2棟、中丸子団地2棟 ・市営住宅の統合建替への検討 庁内検討会の設置			
③	○ 街なかや観光地等の回遊性の向上や長野県ゼロカーボン戦略の実現に向け、新たなモビリティのあり方や官民連携による事業の推進 (1) 上田市・千曲市広域シェアサイクルの実施	(1) 4月～3月	(1) 社会実装1年目 目標貸出回数：11,700回 サイクルポート：17箇所 電動アシスト自転車 50台 実施期間：4月1日～12月1日及び令和7年3月20日～3月31日			
④	○ 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの推進 (1) 上田城 城下町エリアビジョンの策定 (2) 大手門まちかどテラスの整備	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) ・社会実証実験（2地区） ・市民ニーズ発掘のための調査（アンケート、ヒアリング） (2) 用地取得 1件 ワークショップ等の開催			
⑤	○ 防災性及び快適性の向上 (1) 新参町線無電柱化事業の推進 (2) 県事業の北天神町古吉町線、国道141号、(主)長野上田線無電柱化事業整備推進への協力	(1) 4月～3月 (2) 4月～3月	(1) 工事L=60m (年度内進捗率 720/720m 100%) (2) 県の事業推進に協力する。			
⑥	○ 都市計画マスタープランに沿ったまちづくりの推進 (1) 上田市開発事業の規制に関する条例の見直し	(1) 4月～3月	(1) 条例の規制内容を再検討し、コンパクトなまちづくりを誘導する。			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題		

重点目標	交通まちづくりの推進と公共交通の維持確保		部局名	都市建設部	優先順位	4位
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境【安全・安心な快適環境のまちづくり】 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第2節 「乗って残す」「乗って生かす」を基本とした公共交通の活性化		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	○緊急 新型コロナ対策と即効性のある社会経済対策 3 福祉を充実し、多様性を尊重した地域共生社会を実現する 5 DXやGX等の革新的技術でSDGsを推進、人と自然が調和した活力あるまちをつくる		
第四次上田市行財政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け						
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・モータリゼーション及び人口減少の進行に伴い、公共交通利用者は減少傾向にあり、交通事業者の収益悪化は深刻な状況であり、人口減少による将来的なさらなる利用者減少が懸念されるとともに、コロナ禍前の輸送人員までの回復は見込めないという点も危惧され、また、法改正に伴う2024問題により顕在化した交通事業における運転手不足と高齢化のため、公共交通の維持・確保が極めて困難な状況にあります。 ・高齢ドライバーによる重大事故が多発し社会問題となっている中、運転免許証の返納者数が増加しており、地域での支え合いを含めた高齢者の移動手段の確保が大きな課題となっています。 ・高校生の約半数が家族送迎により通学しており、送迎に係る負担増加や渋滞発生等の課題が発生しています。バス運転手不足が原因で実施されるバス減便（最終便の繰上げ等）のため、多くの利用者に新たな負担が生じます。 ・分かりやすく、使いやすい公共交通とするため、利便性向上のためのキャッシュレス化の推進やオープン化したデータによる情報提供など、上田市スマートシティ化推進計画に基づくデジタル化の取組を進める必要があります。 					
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・移動手段の確保を図り、移動サービスの品質を向上させることにより、市民の暮らしをより便利に快適にします。 ・高齢者の外出促進による健康増進・医療費軽減、通学費等の負担軽減、交通渋滞解消、ゼロカーボンの推進、文化的価値の維持（別所線）の効果、また、モビリティマネジメントの推進、地域活性化（まちの賑わい創出）、都市間連携の強化の効果が現れるよう取組を進めます。 		該当するSDGsの目標			
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限（いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告（目標に対する進捗状況・進捗度）及び（中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）
①	<ul style="list-style-type: none"> ● 上田市地域公共交通計画の進捗管理・評価・見直し等 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事業者、庁内関係課による計画内容（公共交通体系の構築）の進捗管理・評価 ・ 上田市公共交通活性化協議会や地域協議会における計画見直し等の協議 ・ 長野県地域公共交通計画との調整、整合 ・ 交通有識者、モビリティアドバイザーによる助言 	09月：進捗管理・評価 03月： 長野県地域公共交通計画との調整・整合を図るための見直し等の検討	03月末： 計画見直しのための検討			
②	<ul style="list-style-type: none"> ● 公共交通の確保維持に向けた安全対策事業と利用促進事業の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 別所線の安全対策事業と利用促進事業の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ R6事業の推進、R7以降の橋脚補強検討 ・ 日本遺産、シェアサイクルとの連携事業の推進、活性化イベントの実施 (2) 路線バス、循環バス等の利用促進と調査検討 <ul style="list-style-type: none"> ・ 交通事業者や他分野を交えたプラットフォームによる協調・共創の取組の検討 ・ モビリティアドバイザーの活用（第6期の運賃低減バス事業に向けた研究・制度設計等、バス減便への対応策の調査検討） ・ モビリティマネジメントの推進（マイカー移動からの転換等促進事業など） ・ 運転免許証自主返納促進事業の実施 (3) 丸子デマンド交通システムの評価検証と利用促進（丸子地域） (4) 運転手確保に向けた取組の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ バスの運転体験ができる会社説明会の開催 ・ 二種免許取得費用助成など新たな人材確保等の検討 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 年度末：安全対策事業完了、活性化イベントの完了 (2) 年度末：再編案のまとめ (3) 年度末：事業の検証 (4) 年度内 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 年度末：安全対策事業進捗100% ○ 別所線輸送人員106万人の確保 03年度：87.9万人 04年度：97.2万人 05年度：104.6万人 (2) 運賃低減バス事業94.3万人の確保 ○ 実証前：99.5万人(24.10-25.9) 03年度：84.5万人 04年度：90.2万人 05年度：94.3万人 (3) 利用者数（1日平均）22人 (4) 会社説明会の開催3回 			
③	<ul style="list-style-type: none"> ● DX及びGXの推進による公共交通の利便性向上 <ol style="list-style-type: none"> (1) QRコード決済事業（社会実装）の推進 <ul style="list-style-type: none"> ・ 利用拡大に向けた普及啓発 ・ 利便性向上のための事業スキームの検討 (2) 公共交通情報オープンデータ化の推進 (3) AI型デマンド交通、自動運転（EV車両）、乗降データの可視化に向けた調査研究 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 04～03月： 利用促進策の展開 (2) 年度末： オープンデータ化 (3) 年度末： 調査研究のまとめ 	<ol style="list-style-type: none"> (1) 年度末：QR利用率：20% (2) 年度末：オープンデータ化データ整備率：80% (3) 年度末：調査研究まとめ 			
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点		○取組による効果・残された課題			

重点目標	緑豊かな健幸都市空間の創出		部局名	都市建設部	優先順位	5位		
総合計画における位置付け	第2編 自然・生活環境 【安全・安心な快適環境のまちづくり】 第2章 良好、快適な生活環境の形成 第4節 緑豊かな魅力ある都市環境の創出		上田再構築プラン Ver.2.0「もっと、前へ」における位置付け	2 教育・子育ての環境・文化の充実を促進する ●安心して結婚・出産・子育てができる上田市をつくるために ●上田城復元的整備、日本遺産活用、サントミュージアム活用				
第四次上田市行政改革大綱・アクションプログラムにおける位置付け (1) 将来を見据えた新たな行政サービスへの改革 イ 多様な主体が市政に参画・協働する制度づくり (2) 健全で持続可能な財政基盤への改革 エ 公共施設マネジメントの推進								
現況・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・景観計画や屋外広告物条例の適切な運用に加え、地域資源を生かした景観まちづくりが求められています。 ・都市公園等には経年による老朽化が進む公園施設が見られます。 ・子どもたちが公園を安全に安心して利用できるよう、施設の改築・更新と適切な維持管理を行うことが求められています。 ・上田城跡公園について、公園の活用が不十分、駐車場運用における不公平性といった課題への対応が必要です。 ・人口減少・少子高齢化が進行するなか、花と緑のまちづくりにおける市民や事業者の活動参加、都市緑化への意識を高めていく検討が必要です。 							
目的・効果	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史的町並みや文化財などの景観を維持向上させることで、上田らしい魅力ある景観形成が図られます。 ・公園施設長寿命化計画に基づき、都市公園の整備や遊具の改築・更新などを行い、安全・安心な公園を目指します。 ・身近にある公園を整備し、子育て世代が安全・安心に利用できる公園整備を進め、楽しめる公園づくりを目指します。 ・公募設置管理制度（Park-PFI）を用いることにより、上田城跡公園が抱える課題解決、さらに公園全体の魅力向上を目指します。 ・自治会などへの花苗配布を通して、「市民主体の花のあるまちづくり」が促進されます。 			該当するSDGsの目標				
取組項目及び方法・手段（何をどのように）		期間・期限 （いつ・いつまでに）	数値目標（どの水準まで）	中間報告 （目標に対する進捗状況・進捗度）及び （中間報告の時点で取組項目に対する方法・手段の見直しを行った点）		期末報告（目標に対する達成状況・達成度）		
① 景観まちづくり、歴史まちづくりの推進 (1) 史跡上田城跡整備事業（武者溜り整備）の推進 (2) 歴史的風致維持向上計画の事業の推進		(1) 4月～3月 (2) 5月	(1) 整備基本計画策定、旧市民会館解体工事の実施 (2) 景観ウォッチングの開催					
② 公園施設長寿命化計画に基づく施設の改築・更新事業の推進 (1) 公園施設長寿命化事業		(1) 4月～3月	(1) 丸子公園等7公園（9発注）の公園施設の改築・更新					
③ 子育て支援・身近な公園改築・更新の推進 (1) 子育て支援・身近な公園改築・更新事業		(1) 4月～3月	(1) 北部公園等3公園（5発注）の公園施設の改築・更新					
④ 民間活力の導入による上田城跡公園の新たな魅力の創出 (1) Park-PFI（公募設置管理制度）の活用		(1) 4月～3月	(1) 公募手続きの実施					
⑤ 景観・緑化に対する市民意識の高揚の促進 (1) 花壇づくりパネル展を通じて都市緑化活動を啓発 (2) 花苗配布により自治会等の花壇づくり活動を支援し、潤いのある花と緑のまちづくりを推進		(1) 12月～3月 (2) 5月～11月	(1) 花壇づくりパネル展開催（写真展示） (2) 花苗の配布 自治会等の団体：春、秋 中心商店街：春、秋					
⑥ かわまちづくり支援事業 (1) 管理棟建築工事、整備工事		(1) 4月～3月	(1) 工事（建築・土木）事業完了（進捗率 100%）					
特記事項	○市民参加・協働の推進、市民満足度の向上を考慮した点			○取組による効果・残された課題				